

KSAT2 機体公開

鹿大など
開発協 太陽光パネル2倍に

NPO法人「鹿児島人工衛星開発協議会」は5日、鹿児島市郡元1丁目の鹿児島大学で総会を開き、開発中の超小型人工衛星「KSAT2」の胴体部分を

公開した。電波受信に一時成功したが行方不明になった初号機の経路を踏まえ、太陽光パネルを初号機の2倍の16枚取り付け、発電能力を高めた。

KSAT2は1辺10センチの立方体で、大気中の水蒸気分布観測が目的。2013年度、南種子町の種子島宇宙センターから、全球降水観測計画の主衛星「G

PM」を搭載して打ち上げられるH2Aロケットに相乗りする。

同日は、開発担当者が、パネルの枚数を増やすために、機体の側面が展開する開閉式構造を採用したことなどを説明。10年打ち上げの初号機では、通信の不調で位置を見失ったが、電力が増せば通信時間が長くなり問題を解消できるといふ。



KSATの構造を確認する鹿児島人工衛星開発協議会の会員＝5日、鹿児島市郡元1丁目の鹿児島大学

同協議会は、13年3月の完成を目指し、9月から内部に通信機などを設置。宇宙の真空状態など過酷な環境への耐久性を測る試験を進める。開発に携わる鹿児島大学の西尾正則教授は「今後の試験が開発の山場」と話した。